



くねくねヘビ

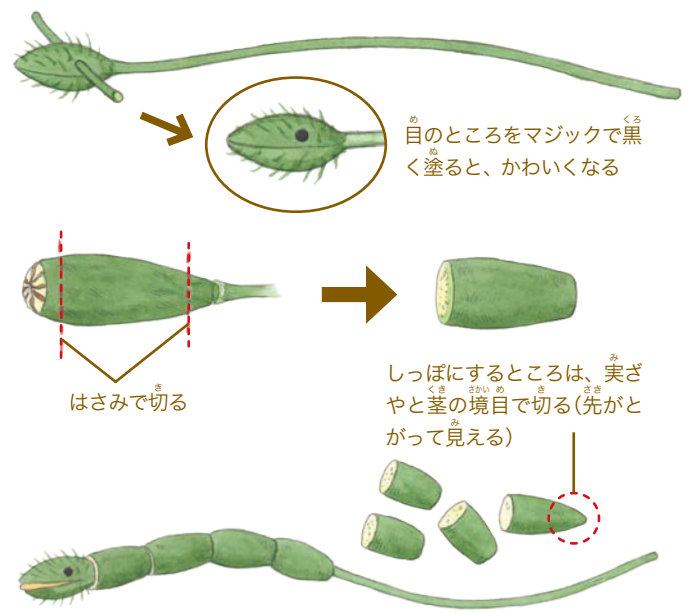
実ぎやの上下を切ってビーズのようにつないでいけば、くねくね動くヘビに変身！

用意するもの

- 蕾がついている長い茎…1本
- 緑色の実ぎや…10～12個
- 実ぎやのついた、長くて硬い茎…2本

つくしかた

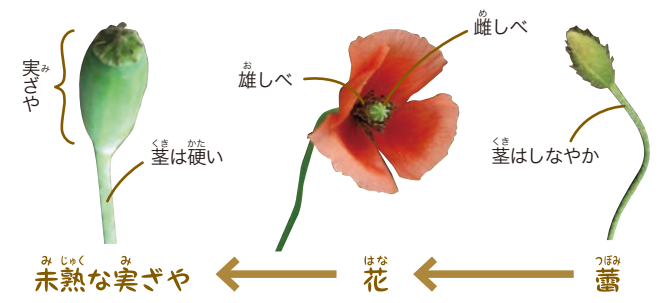
- 1 まず、蕾で顔をつくる。目になる位置に楊枝を貫通させて穴をあけ、茎を挿してはみ出している部分を切る
- 2 実ぎやの上下をはさみで切る。これを合計10～12個準備する
- 3 ①の茎に②の実ぎやを通していく。最後に、胴体の前後2カ所の下側に楊枝で穴をあけ、長くて硬い茎を挿して、動かしてあそべるようにする



いろんな動きができるよ！

memo どの段階のものをつかう？

いちばん大活躍するのが、まだ緑色をしている未熟な実ぎや。茎や蕾、花びらも、いろいろつかえるよ！

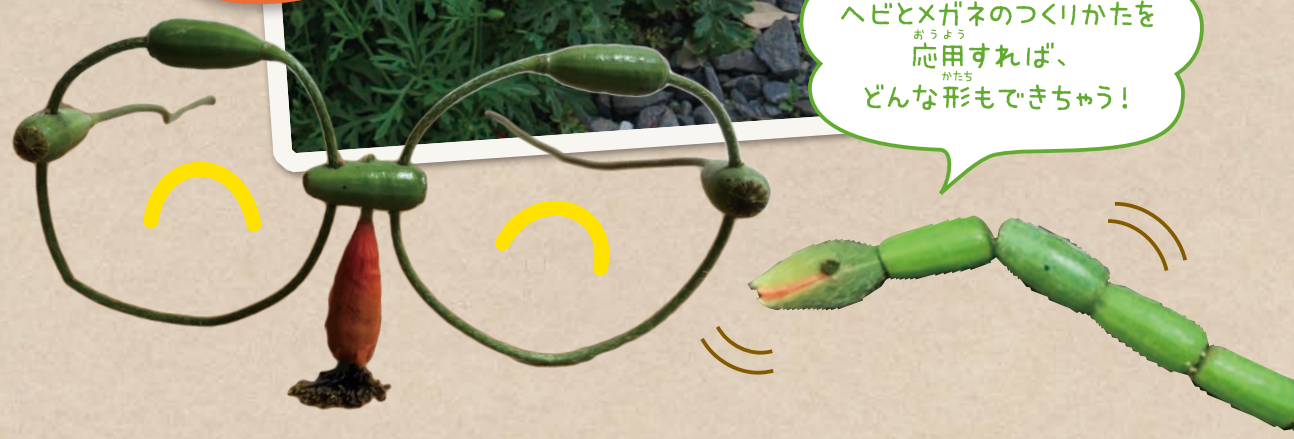


⚠ がいらいしよくはんしよくおうせい 外来植物で繁殖力旺盛。1つの実ぎやに1,000粒をこえるタネが入っている。増えすぎるものと元々あった草のすみかを奪ってしまうので、タネを地面にまき散らさないように注意！

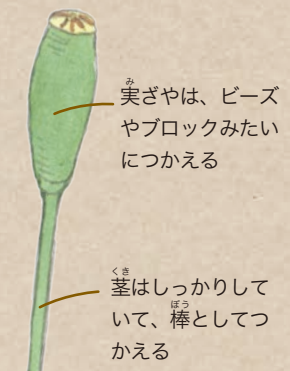
アイデア無限大！ ナガミヒナゲシであそぼう！

ナガミヒナゲシはポピーに似たオレンジ色の花。道ばたや空き地に群生しているよ

ヘビとメガネのつくしかたを応用すれば、どんな形もできちゃう！



植物あそびの研究者・相澤悦子さん(24ページ)でも登場は、ナガミヒナゲシをつかったおもちゃを次々と発明しているよ。蕾がついた茎はやわらかくしなやかなのでヒモになり、花が咲いたあとの「実ぎや」の茎は硬いので棒としてつかえる。若い実ぎやの中はやわらかくて茎を通すことができるから、ブロックやビーズみたいにどんどんないでいくことができて、アイデア次第でどんな形でもつくりだせちゃうんだ。きみもオリジナルのおもちゃを発明しちゃおう！



実ぎやは、ビーズやブロックみたいにつかえる
茎はしっかりしていて、棒としてつかえる

◆マークは82ページに用語解説あり

イラスト・角 慎作、まとめ・編集部